

IPNU

キャンパスネット



大学院看護学研究科長に就任して



大学院看護学研究科長 吉田 和枝

本年4月より研究科長の重責を担うことになりました。本学の大学院看護学研究科は、本年度で博士前期課程は11期となり、博士後期博士課程は9期となりました。本学の大学院の教育理念は、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度な研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努めることにあります。近年、ますます社会における看護のニーズが高まっており、看護の役割が増大しつつある状況の中で、本大学院の教育理念をさらに進化・発展させ、成熟させることが期待されています。

博士前期課程は平成16年度に開設後、70名の修士号取得者を輩出しており、うち23名が専門看護師養成単位を取得し、15名の看護専門看護師が誕生しております。博士後期課程では平成18年4月に開設後8名の博士取得者を輩出しております。そして本年4月には、新たに14名が入学し、現在、前期課程26名、後期課程15名の計41名の大学院生が学んでいます。

本学に入学されたなら、本学の制度や環境を活用し、自ら掲げた目標にチャレンジし、各自の課題を全力で解決し、看護の次世代を育てていく教育者、内外の看護界をリードできる研究者、そして実践の場での専門的医療人として大きく羽ばたいてほしいと願っております。学長をはじめ、わたくしを含めて本大学院教育にかかわる教職員すべては、人材育成のためによりよい環境を提供していきたいと思っております。

看護は様々な健康のレベルにおられる人々に対して、健康という側面から、人々が生きる力と喜びを持てるようになる変化の過程を援助することにあります。それは、また、その援助をしていく看護を職業とする側においても、看護を学び、看護を研究し、看護を実践していく過程で、充実した多彩な素晴らしい人生が切り拓けるといえる面があるのです。

教員も学生も共に学びあう、明るく開放的な校風を大切にしたいと願う大学院教育を進めたいと思います。皆さん、大いに看護を語りあいましょう。

目次

大学院看護学研究科長に就任して……………1	認定看護管理者合格……………4	小児看護学実習Ⅰ……………6
大学の主な動き	新任教員紹介……………4	第Ⅴ段階実習……………6
第15回入学式……………2	第11期卒業生に聞く……………4	ボランティア活動に参加して……………6
石川県立看護大学に入学して……………2	看護師として就職して……………5	自治会活動紹介……………7
学長表彰……………2	保健師として就職して……………5	第15回大学祭のお知らせ……………7
地域で地域住民とともに学ぶ……………3	助産学専攻科に進学して……………5	看護キャリア支援センターから……………8
夏のオープンキャンパス2014……………3	養護教諭特別別科に進学して……………5	地域ケア総合センターから……………8
トピックス	キャンパスライフ……………4	図書館から……………8
University of Washington School of Nursing 研修……………4	フィールド実習……………6	平成26年度後期キャンパススケジュール……………8

大学の主な動き

第15回入学式



2014年4月4日(金)、第15回石川県立看護大学入学式が挙行されました。谷本正憲石川県知事をはじめ、石川県公立大学法人理事長、かほく市長、石川県医師会長、石川県看護協会会長のご臨席を賜り、看護学部看護学科92名(1年次生82名、3年次編入生10名)、大学院看護学研究科14名(博士前期課程10名、後期課程4名)が本学への入学を許可されました。学長式辞で、石垣和子学長は「大学という場で手に入れるさまざまな機会の中で、人を知り、社会を知り、想像力を身につけ、人間としての知恵を身につけてほしい」と述べられました。次いで学部を代表して角村莉奈さん、大学院を代表して久保博子さんが今後の大学生活への希望と決意を込めて宣誓を行いました。

今年も期待と希望に満ちあふれた新しい大学生活がスタートし、我々教職員一同も学生ひとりひとりの個性を生かした看護教育にむけて、全力で取り組んでいきたいと思っています。

学生部長 牧野 智恵

石川県立看護大学に入学して



私は石川県で看護師を目指すにあたり、学習環境が整ったこの大学で是非とも学びたいと思い、入学しました。学生数は少ないですが、その分ほかの大学よりも学生同士親密になり、勉強も協力し合い、またサークル活動も多岐に渡り、充実した学生生活が送れることと思います。

本学では看護の技術だけではなく、看護師に必要な教養・知識全てを学ぶことができます。付属図書館には、看護・医療に関連した書物がたくさん置いてあり、自分が学びたいことを学びたいだけ学ぶことが可能です。私は本学で多くの知識を吸収し、人間的にも成長して立派な看護師になることができたら良いなと思います。

1年 角村 莉奈

学長表彰

2014年5月29日(木)に開学記念行事が行なわれ、「茶道サークル」および「災害ボランティアサークル・ふたば」の2団体が学長表彰を受賞しました。

「茶道サークル」は長年、本学の入学式、大学祭、オープンキャンパス等のさまざまなイベントにおいてお点前を披露し、来学者に心地よい場を提供している活動が評価されました。

「災害ボランティアサークル・ふたば」は東日本大震災後、被災地の仮設住宅におけるサロン活動や交流を通して住民の孤立化防止に取り組み、またかほく市の災害に強いまちづくり事業に貢献している活動が評価されました。



茶道サークル 災害ボランティアサークル・ふたば

大学の主な動き

地域で地域住民とともに学ぶ

2014年5月11日(日) 能登町 「第28回猿鬼歩こう走ろう健康大会」 来^ま人^ま喜^ま人^ま里^ま創^まり^まプロジェクト

学生、教職員が参加し、健康キャンペーンとして、血圧、骨密度、体組成測定の実施、がん検診推進キャンペーングッズ配布等を行いました。



2014年6月 「フィールド実習」

フィールド実習では、1年生が地域をフィールドとして活動し、地域で生活する人々との関わり合いを通じて、暮らし、文化、環境の理解を深め、看護学を学ぶための社会人基礎力を養います。



夏のオープンキャンパス 2014

夏のオープンキャンパス 2014は2014年7月19日(土)に開催しました。県内外から高校生、専門学校生、社会人および保護者ら約350名の参加がありました。

本学の学生広報委員や学生ボランティア、教職員らがキャンパス見学や看護学実習体験、相談・交流コーナー、保護者セミナーなどの各企画を担当し、賑やかに参加者との交流を楽しみました。

このオープンキャンパスが参加者の皆さまにとって本学への理解や関心を深める機会となり、一人でも多くの方々に本学への進学を志していただけることを期待しています。



トピックス

University of Washington School of Nursing 研修

2014年2月28日(金)～3月26日(水)、アメリカワシントン州シアトルのワシントン大学において、Visiting Scholar(客員研究員)としてNoel・J・Chrisman教授(Psychosocial & Community Health)のもとで、CBPR(Community-Based Participatory



Research) 地域参加型研究の実際と評価について学びました。当事者と共に課題に取り組むためには、まずその当事者の文化とニーズを理解すること、そしてコミュニティの持つあらゆる資源と共に活動することの大切さを学びました。今後の家族介護者支援に活かしていきたいと思ひます。

在宅看護学 准教授 彦 聖美

大学院修了生2名、認定看護管理者(CNA)に！

2014年7月8日に第18回認定看護管理者(Certified Nurse Administrator : CNA)合格者が発表されました。その中に本学大学院博士前期課程看護管理学分野修了生の野村仁美さん(地域医療推進機構金沢病院 看護部長)と中村真寿美さん(金沢医科大学病院 看護副部長)の2名が含まれていました。



認定看護管理者徽章

認定看護管理者とは日本看護協会認定看護管理者認定審査に合格し、管理者として優れた資質を持ち、創造的に組織を発展させることができる能力を有すると認められた者をいいます。お二人には、本学大学院での学びを基盤に、看護ケアの質向上と働きやすい職場環境づくりに貢献していただくことを期待しています。

大学院看護管理学分野担当 丸岡 直子

新任教員紹介



附属看護キャリア支援センター 准教授 ^{いしかわ}石川 ^{のりこ}倫子

本年4月に石川県立看護大学附属看護キャリア支援センターに着任しました。どうぞよろしくお願ひします。

看護キャリア支援センターの最初の事業である感染管理認定看護師教育課程が7月16日に開講しました。第1期生30名の方々と感染管理認定看護師の役割、その役割を達成するために必要な調整・相談能力などを学んでいます。リアリティある実現可能な話し合いは時を忘れて続けていたい気持ちになります。

「看護をよりよくしたい」という保健・医療・福祉の現場で働く看護職の方々とともに学び合えることを幸せに思っています。微力ではありますが、これまでのキャリア支援の経験を活かし、柔軟に誠実に共に学んでいきたいと思ひます。



英語 准教授 ^{かとう}加藤 ^{ゆたか}穰

4月から着任いたしました。新潟県上越市出身ですが、東京、コネチカット州、大阪、バージニア州、岡山と渡り歩いてきましたので、久しぶりの日本海側への復帰となりました。専門は生命倫理学で、趣味?は翻訳です。官公庁や企業にも翻訳を提供してきましたが、それら以外に、オンラインで読める生命倫理学関連の学術論文の翻訳もありますので興味があればお読みください。現在、生命倫理学の成立に関する書籍を翻訳しており、出版社も決まっていますが、売れそうな内容でないことを気に病む毎日です。どんなに複雑な英文でもその場ですぐに解説するので、英語文献で難読箇所があればいつでも質問してください。ドイツ語にも対応できます。何卒宜しくお願ひいたします。

第11期卒業生に聞く

看護師として就職して



私は現在、皮膚科・がん高度先進治療センターの病棟で勤務しています。大学での実習ではがんを抱えながら生きる方々と深く関わらせていただき、大学での経験から、がんの方への看護に興味を持ち、この病棟での勤務を希望しました。実際に就職してからは、何事も思うようにはいかず、失敗して悔しいことも多いですが、先輩方や同期の仲間に支えられながら充実した毎日を送っています。もうこれ以上進めないと思う日もありますが、何よりも患者さんの言葉や笑顔が自分の背中を押してくれているように思います。

学ばなければいけないことばかりで余裕もないのが現状ですが、関わらせていただく方々への感謝の気持ちを忘れず、患者さんの目線に立ってケアを提供できるようにこれからも努力していきたいと思っています。 金沢大学附属病院 南 克典



私が県立中央病院を志望した理由は2つあります。1つは地元地域で貢献したかったこと、もう一つは三次救急を担っている病院で働き、将来DMATとして働きたかったためです。今はHCUに配属され、忙しいながらも充実した毎日を送っています。現場では重症度の高い患者様を前に自分のできることは何かを常に考えながら看護を行っています。患者様の命を預かる立場として専門的な知識や技術を必要とされ、自分自身の無力さに悲しくなり、悔しい思いをすることもたくさんありました。しかし、看護を行う中で、患者・家族と関わり、自分が少しでも役に立つことができているのではないかと少しずつ思うことができるようになってきました。

学生時代はさまざまな分野の授業があり覚えなければいけないこともたくさんあると思いますが、臨床でその知識は必ず役に立ちます。私自身学生時代に学んだことを基礎として今後も勉強し、患者様の力になれるよう努力していきたいと思っています。 石川県立中央病院 村中 裕紀



私は東京都にある独立行政法人国立国際医療研究センター病院のICUで働いています。就職して約4カ月が経ちますが、まだまだ緊張の連続で、仕事に慣れたとは到底いえません。ICUは手術後の患者さんや救急搬送された患者さんが入院されており超急性期の看護を学ぶことができ、一人の患者さんに一人の看護師が担当となるため、病棟ではできないような手厚く丁寧な看護が提供できます。急性期の看護として急変が多いことから最低2時間毎のバイタルサイン測定や医師との連携を図り、患者さんがより良い医療を受けられるよう努めなければいけません。挿管されている患者さんが多くその他にもME機器や循環動態に関係する薬剤を扱うことから、確実な知識が必要不可欠であり日々の学習は欠かせません。学びの多い毎日で大変なことも多いですが、同期がたくさんいることからみんなで息抜きをしつつ支え合っています。県外に就職して石川を懐かしく思うこともあります。新境地で新たな友人や趣味などをみつけて充実した毎日を送っています。 独立行政法人国立国際医療研究センター病院 小谷 文乃

保健師として就職して



地元である珠洲市に保健師として就職し、4カ月が経とうとしています。学生時代に看護学を学ぶなかで医療者の視点で少子高齢化の著しい珠洲市の現状を見つめたとき、保健師となって地域住民の健康寿命の延伸に貢献したいと思うようになりました。入学した当初は地元就職するとは思っていませんでしたが、一度地元を離れ改めて良さを実感するとともに、珠洲市の次世代の医療を担う若者の存在の必要性を感じました。試験勉強中は、挫折しそうになったときもありましたが、仲間とともに乗り越えて、今こうして自分の生まれ育った町で保健師として働くことができました。就職してからも、まだまだ知識と経験が浅く戸惑うこともあります。住民の温かさに支えられ保健師としての生きがいを感じる毎日です。今後も疾病の予防や早期発見・早期治療を目指し、地域住民から信頼される保健師になれるよう頑張りたいと思います。 珠洲市役所福祉課 健康増進センター 板村 靖世

助産学専攻科に進学して



私は、助産師になることを目指して、金沢大学大学院の助産学分野に進学しました。大学院ということで、助産の勉強だけでなく、研究についての講義もあり、自分でテーマを考えて研究を進めていかなくてはなりません。大学院の2年間は初めは長いと考えていましたが、もう今は時間が足りない日々を送っています。また、先生方のご厚意により、卒業生の助産師の方々のお話を聞かせて頂く機会も多く、助産師という職業の持つ可能性や、責任の重さを感じることができています。

去年の9月ごろは、“国試よりも受験勉強”と大学に通っていましたが、まわりの友人たちが就活と国試勉強をはじめているなか、自分はなかなか進路が決まらず、進学出来るのか、国試は大丈夫なのか、と不安に押しつぶされそうになったときもありました。今ではその日々があったからこそ、今後も頑張っていけるとしています。 金沢大学大学院助産学分野 坂本 独

養護教諭特別別科に進学して



私は現在、金沢大学養護教諭特別別科で養護教諭の勉強をしています。これまでの学生生活を通して、心身共に安心できる存在である養護教諭に憧れを抱いていました。更に、看護大学での講義や実習を通して予防の重要性を実感し、成長発達段階にある子どもたちの健康に携わりたいという思いが強まり、養護教諭を目指しました。4年生の頃は、国家試験の勉強や卒業研究に加えて、別科進学のための勉強ととても大変でした。しかし、あのときの頑張りは現在の自分につながっていると日々実感しています。

別科に入学してからあっという間に4カ月が経ちました。養護実習や教員採用試験、保健室ボランティアなど忙しい毎日ですが、同じ目標を持った仲間とともに充実した日々を送っています。養護教諭として子どもたちのオンリーワンの存在になれるよう努力していきます。 金沢大学養護教諭特別別科 西島 結実

キャンパスライフ

フィールド実習



私は能登町白丸地区で2泊3日の実習をしました。地元の方は優しい人ばかりで、私たちが歩いていると「どっから来たん？」などと話しかけてくださって、とても嬉しかったです。住民の方と一緒に生活をさせていただき、近所づきあいの様子、健康に対する姿勢など、生活について深く知ることができました。能登町健康福祉課への訪問、おくのと市めぐり、料理教室への参加といった多くの活動をしました。特に家族との食事などの団欒の時間は話が盛り上がり楽しんでました。一緒に作った料理も絶品で、畑で採れたての野菜は新鮮で美味しかったです。また、農業体験を通して、身体への作業負担の大きさとやりがいを実感することができました。普段できない貴重な体験ばかりで、とても充実した時間でした。これからも、私たちが温かく受け入れてくださった能登町白丸地区のみなさんと交流を続けていけたら良いと思います。

1年 新田 明里

小児看護学実習Ⅰ



私は、保育園で5歳児さんを担当させていただきました。実習に行くまでほとんど子どもと接する機会がなかったので、子どもたちと上手く関われるか不安でしたが、「上手く関わる」なんて考える余裕のないくらい子どもたちの元気さに圧倒されました。

この実習では、教科書と実際の幼児の成長発達は同じではなく個人差があること、遊びは幼児が精神的・身体的にも成長していく上でとても重要なものであると学ぶことができました。

3年 長田 菜摘

第V段階実習



4年次のV段階実習では、地域で生活しながら療養する方たちへの看護について学びました。これまでの実習のまとめの段階の実習ですが、病棟や施設とは違った、より患者さんの生活を重視した看護を展開し、たくさんの新しい学びを得ることができました。私は、疾患や障害を抱える人が地域で生活する上で様々な困難を抱えていることに気づきました。その困難に対して、看護職をはじめとする医療チームが協働して支援する様子を実際に見ることができました。チーム医療の中でも看護師は患者さんにとって最も身近な存在であり、患者さんが地域において自分らしい生活を送るためのキーパーソンであると感じました。

学生生活最後の実習で、これから臨床に出るにあたって本当に大切なことを学ぶことができたと思います。この実習での学びを土台に、“看護師の専門性”を存分に活かすことのできるチーム医療の一員として臨床で働いていきたいです。

4年 近藤 夏美

ボランティア活動に参加して

2014年8月8日～11日、第40回北陸小児糖尿病サマーキャンプにボランティアスタッフとして本学から3年生3名が参加しました。運営のサポートをしながら、実際に子どもたちが糖尿病と付き合いながら普段どのような生活を送っているのかを知ることができました。キャンプではさまざまな活動が行われていましたが、一番思い出に残っているのはダンスコンテストでした。空き時間を利用して、みんなで一生懸命練習し、本番では一体感のあるダンスを披露することができました。しかし、子どもたちは普段よりよく遊び、動いていたため、体調管理が出来ている子もいれば、低血糖を起こし気分がすぐれない子も見受けられました。小児期は特に対処能力には個人差があり、各々に応じた関わり方が必要であると学びました。



3年 中村 瑠乃

キャンパスライフ

自治会活動紹介

平成 26 年度の自治会は 4 年生 2 名、3 年生 2 名、2 年生 12 名、1 年生 14 名の役員が中心となり、学生が自主的に学生大会や新入生歓迎会、座談会、大学祭等の集会や行事を運営しています。

このような役割を果たす中で、企画計画力、実行力等が確実に身につけていくことを実感しています。これからも大学をよりよくしていくために尽力します。

平成 26 年度自治会長 2 年 上平 真穂



第 15 回大学祭のお知らせ

スローガン「和 ～ hand to hand ～」

日時：2014 年 10 月 25 日（土）9：00～
10 月 26 日（日）9：30～

場所：石川県立看護大学

企画：各種模擬店、ミスコン、お化け屋敷、
カラオケ大会、県看ドック ほか

第 15 回
石川県立看護大学 大学祭
2014 年 10 月 25 日(土) 9:00～
10 月 26 日(日) 9:30～

和
～hand to hand～

模擬店
お化け屋敷 講演会
カラオケ大会 ミスコン
県看ドック(健康診断)
他にも楽しい企画がいっぱい!

秋のオープンキャンパス 2014
25 日(土) 9:30～12:00
入試準備セミナー開催

石川県立看護大学 11E
おひらき 5 分!
※さくら会後援

お問い合わせ先
〒929-1210 石川県かほく市学園台 1-1
TEL 076-281-8302(教務学生課)
E-mail kandasai@gmail.com
大学ホームページ
<http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>

石川県立看護大学大学祭 講演会

3.11.東日本大震災

あの日から 3 年半

『今を生きる力』

講師 渡辺祥子氏 アナウンサー・朗読家



〈講師プロフィール〉
1991年フリーアナウンサーとして独立。東日本大震災時に仙台で被災した後、被災地で懸命に生きる人々の生きる姿やこころ温まるエピソードなどを取り入れ、被災地と支援者を結ぶ活動も積極的に行っている。
著書:『3.11からのことば～被災後を生きる人々の言葉～』

平成26年 10月26日 (日)

11:00-12:30

石川県立看護大学講堂

主催：石川県立看護大学 大学祭実行委員会
後援：石川県立看護大学 同窓会 さくら会

石川県立看護大学大学祭 講演会

3.11. 東日本大震災 あの日から 3 年半

「今を生きる力」

日 時：2014 年 10 月 26 日（日）
11：00～12：30

場 所：石川県立看護大学講堂

講 師：渡辺 祥子氏

入場無料

大学祭同日開催

秋のオープンキャンパス 2014

日時：2014 年 10 月 25 日（土）9：30～12：00 場所：石川県立看護大学
詳細は大学ホームページをご覧ください。

看護キャリア支援センターから

「感染管理認定看護師教育課程」開講

2014年7月16日、石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター感染管理認定看護師教育課程が開講しました。履修生は石川県20名、富山県4名、福井県2名、滋賀県2名、京都府1名、新潟県1名で、看護師経験5年以上、うち3年以上の感染管理活動実績を有する経験豊富な看護師たちです。教育期間は約7か月間にわたり、履修生らは計630時間の講義・演習・臨地実習を受講します。

履修生の一人は「認定看護師の中で感染だけは“管理”がつかます。自分はマネージメントすることに興味があり、感染管理認定看護師をめざそうと思いました。もう一つ、大学という環境で受講できることや、勤務地から近いことも魅力です」と話していました。第一期生はモチベーションが高く団結力もあり、7か月間後の成長が楽しみです。

また、附属看護キャリア支援センターは感染管理認定看護師教育課程だけではなく、看護職者のキャリア形成の中核拠点としての役割も果たしてまいりたいと思っておりますので、ご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

看護キャリア支援センター長 丸岡 直子



地域ケア総合センターから

地域ケア総合センターでは、「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」という研修事業を実施しました。パラグアイとブラジルから3名の研修員が来学し、学内と羽咋市にて知識や技術の習得に努めました。介護知識と技術の獲得、介護している家族が休息できる介護システムの構築、デイサービスへの参加を促す方法の獲得をそれぞれの到達目標とし、講義や実技研修をレポートにまとめ、最終的にはアクションプランとして発表会を行いました。

その他の事業として専門職対象の「手を用いたケアの力」、地域貢献事業としてかほく市との共催で「すみよい街づくり(仮題)」フォーラム開催を予定しています。皆様のご協力とご参加をお願いいたします。

地域ケア総合センター長 長谷川 昇




図書館から

今年度から附属図書館長を務めることになりました。大学図書館は、ハーバード大学学長C・W・エリオット(1834-1926)によって「大学の心臓」と呼ばれて以来、大学における教育・研究の拠点として発展してきました。現在では、これに地域貢献が加わるのでしょうか。大学図書館の戦略的な位置付けに関して、国では『変革する大学にあって求められる大学図書館像』(2010年)などで詳しく述べており、様々な機能・役割が期待されています。限られた予算と人員の中でいきなり大きな成果を上げることは難しいですが、少しずつでも着実に進んでいきたいと思えます。これまで以上に、利用しやすい図書館運営を目指しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

図書館長 大木 秀一

平成26年度 後期キャンパススケジュール

後 期	
授業開始	10月 1日(水)
履修登録受付	9月 19日(金) ~ 10月 3日(金)
大学祭(看大祭)	10月 25日(土) ~ 10月 26日(日)
秋のオープンキャンパス	10月 25日(土)
冬季休業	12月 24日(水) ~ 1月 4日(日)
補講・試験	2月 10日(火) ~ 2月 20日(金)
春季休業	2月 21日(土) ~
卒業式・学位授与式	3月 13日(金)

石川県立大学法人

石川県立看護大学 看護学部看護学科 大学院看護学研究科
 ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地 TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
 URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp> e-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

版權は石川県立大学法人に帰属します